

長岡地区租税教育推進協議会 会長賞 優秀

日常に溶け込む税

新潟県立長岡高等学校

二年 藤岡 伶瑳

税金の用途と聞いて真っ先に思い浮かんだのが、国会中継で居眠りをしている議員と、そんな人に対して、たびたびSNSで「あんな人たちに税金を納めたくない！」などと憤りを示している人たちだ。果たして私たちが納めた税金は正しい使われ方をしているのだろうか、と不安になってしまう。

一方で、個人的には「コンビニで商品を買うとき必ず付加されるもの」、「社会人となって働くようになる」と、給料から所得税、住民税として差し引かれることは当たり前」と、ごく自然な流れとして税金のシステムが成り立っているようにも思える。

税金について真正面から向き合ったときと、日常生活に溶け込んでいく税金をふと思いついたときとは何が違うのだろうか。

私は両者の違いの一つに「税金の使い道」を考慮しているか否かという点があると思う。

お金を払ったら、その分の対価が得られる。対価とは、サービスや商品のことだ。そして支払うお金の大きさに比例して、対価を得るまでにかかる時間は長くなる傾向があるようにも思える。数百円のアイスはレジに持っていき

お金を払えばすぐに食べられるが、数百万から数千万円にも及ぶ一軒家の購入となると土地や引っ越しなどについて様々な手続きが必要で、実際に完全に住めるようになるまでには多くの時間がかかるだろう。

しかし、これら二つの事例にも共通点はある。対価を得るのはお金を払った自分自身という点だ。自分がお金を払い手に入れたものだからこそ私たちは対価に価値を認識できる。

では、税金はどうだろうか。令和四年度の国の税金収入の合計は約六十五兆円だそう。これだけの大金が動いているのだから、私たちがその対価を得るまでに時間がかかり、更に、対価はお金を払った全国民が得ているため、それに対しての価値の認識が希薄になってしまふことは明白に思える。

私たちが当たり前前に税金を納めているように、税金もまた私たちの気付かないところで対価を与えているのだろう。私たちは私たちが思っている以上に根底で支えられている。

しかし、それを理解したとしても、現状税金の収入と支出両方で多くの問題点があることに変わりはない。先に挙げた議員の居眠り問題も、支出のほんの一部だが、それでも国民の代表として出席している以上、あってはならないことだと思う。

一介の学生が大言するのは身の程を弁えていないとは思いますが、私は、政府に税金制度に対する問題点を打破するための革新的な政策を行ってほしいことを期待している。税金の対価は測り知れないが、税と真正面から向き合うと必ず悪い部分も見えてしまう。税金というシステムに問題点が無くなることを期待し、これからも自分で考え、意思を持った上で社会に参加し税金と向き合っていきたい。